

●お参りの順序

10年以上前になりますが、故郷の山岳系神様に、母と息子と私の3人で参拝しました。

お高い山から下山して、次に車でちょっと離れたところにある地元のお稲荷さんへ行きました。

地元のお稲荷さんは低い山にあるお稲荷さんで、実家のお稲荷さんはここから勸<sup>かんじよう</sup>請<sup>しん</sup>しています。そのお稲荷さんの山に登っていたら、猛烈な吐き気が襲<sup>か</sup>ってきて、冷や汗が出てきました。一歩歩くごとに症状が重くなります。

うわー、ヤバい、食あたり？　と思った時に、その低い山の腹から、山岳系神様がいます高い山が目に入りました。その瞬間”お参りはダメ”という念が届きました。なんで？　と思いました。が、そんなことを悠長に考えている余裕はなく、必死で吐き気と闘いながら私だけに引き返しました。

すると、あつという間に体調は回復し、車に戻った時には吐き気もすっかり治まっていた。そこで、改めてじっくり考えました。

山岳系神様は格の高い神様ですから、ヤキモチを焼く、などという低俗な考えは絶対に持っていません。ですから、行くな、というのは、私の身を案じてのことに間違いありません。だけど、

行こうとしているのは、実家にも入っているお稲荷さんで、悪いところではないのです。神様にお参りに行くのですから、止められる意味がわかりませんでした。思考の迷路にはまっていたら、”参拝の順序”という念が届きました。なにやら順序があるらしい、とそこで初めて、順序があると知りました。

その時はまだ詳しくわからなかったので、「とにかく、理由はなんであれ、山岳系神様の後でお稲荷さんに行くのは良くないらしい」とだけに刻みました。

その数年後、今度は元夫と一緒に山岳系神様に参拝しました。下山して、車に乗り込み、お山を離れました。そして、お稲荷さんのいる低い山の横を通る時に、車を停めて、山の入口で手を合わせました。

お稲荷さんのお堂まで行くわけではないし、山の下で手を合わせるくらいならいいかな、と思ったのです。挨拶だけでもしてこう、という気持ちでした。

すると、その後、道に迷ってしまい、山を切り拓いた新興住宅地に入り込んでしまいました。新しく出来た住宅地のせいか、ナビ上では、山のご真ん中になっています。その一帯からの出口がわかりません。元夫と2人で、こっち？　いやこっち？　とグルグル回っても全然出られないのです。何回も同じところを通ったりにして、来た道すらわからなくなりました。

「わけがわからん、こんな不思議なことってある？」と元夫が言った瞬間に、気づきました。お堂まで行かなくても、ふもとか

らでも、縁がある神様だったら手を合わせれば、それは参拝したことになるのです。そこで「お山の神様、ごめんなさい。もう二度と、帰りにお稲荷さんに手を合わせたりしません」と声に出して謝りました。

謝り終わるか終わらないかという時に、なぜか私は、無意識に右折していました。すると大きな道に出て、その先に国道が見えました。やっと無事に帰れる道に戻れたのです。

元夫がそばでこの出来事を見ていて、「不思議なことってあるんやな」と心底驚いていました。これだけ学習しておきながら、おバカな私は、この後、もう一回やってしまいました。

翌年、また元夫とお参りに行きました。その時は、前日に安芸の宮島へ行き、厳島神社を参拝しました。

空海さんが護摩修法された火が1200年以上も消えずに燃え続けているという大聖院にも行く予定でした。でも厳島神社を先に参拝したので、すでに閉門ギリギリの時間になっており、その日は諦めました。

翌日、朝早く山岳系神様へ行き、その帰りにわざわざもう一度、宮島へ行きました。山岳系神様の後にお稲荷さんや神社に行くのはダメだけど、お寺ならいいのでは？ と思っていたのです。

フェリーで宮島に着いた頃から、何だか天気が怪しくなっていました。弥山に登るロープウェーに乗る頃は空か真っ黒になっていました。もしかしてお寺もダメだった？ と思っていたら、案の定、山頂に着いた途端、本当にバケツをひっくり返したようなゲリラ

豪雨になりました。私たちは傘を持っていなかったので、外には出れません。傘を持っている人ですら、今は無理と待機していました。

「く、ここまで来て」と非常に残念でしたが、神様に“行くな、”と言われているのでは、仕方ありません。

泣く泣く諦めて、そのままロープウェーで引き返しました。順序って何なんだろう？ とその時点でもまだ詳細はわかりませんでした。その数年後、やっとわかる時がきました。出羽三山の月山に登った時です。

月山の神様が、人間はダイヤモンドの原石と同じで、磨かなければ輝かない、と教えてくれました。厳しい修行で自ら磨く方法もありますが、神社仏閣を訪れて神仏に磨いてもらう方法もあるというのです。神社仏閣に参拝するのも小さな修行の一つであり、神仏が研磨剤となって磨いてくれるそうです。イメージとしては、研磨剤というよりも、神仏は柔らかい布で、ツルツルした玉（私たち）を拭く感じです。

神社やお寺を訪れて、神仏という布に一回につき、一拭きしていただくのです。これを地道に重ねていけば、いつかは透明で美しく光り輝く宝石になれるそうです。この一拭きは、“最後のもの”が残ります。つまり、山岳系神様という位の高い神様にせつかく拭いてもらったのに、その後に格下の神様に拭かれると、玉の表面には格下の神様の痕跡が残ります。上書きされる感じ。玉Ⅱ人間、ですから、なるべく格が高い、波動が高いものを身に

まとう方が、靈的にはいいわけです。

旅行などに行つて、神社を回る時は、格が一番高いと思われる神様を最後にした方がよいと思います。すると、高い波動で拭かれた玉となり、いい状態の玉（＝自分）でしばらく過ごせます。格下の神様でも、神様ですから、拭いてもらえるともちろん、日常の状態より良い状態になります。ですので、順序はあまり関係ないと言えそうなのですが、より良い、高い波動が表面に残る方がいろんな面でいいのだと思います。

3 回も根気よくあの手この手で教えられた事ですので、このことは私か考えているより、はるかに重要なことだと思われます。神様の格がよくわからないという方は、例えば伊勢神宮周辺の神社を回るとすると、伊勢神宮内宮が一番位が高いことは何となくわかると思います。そういう感覚です。

京都などたくさんの神社仏閣があつて、どれがどれやらわからない場合、何となくここが一番位が高そうだなと思つたところが、その人と相性が合つた一番格上の神社です。そこを最後にするといいと思います。

靈感がないと思つている方でも、大丈夫です。誰にでもそういう力はちゃんとあるので、なんとなくでも、自分が直感で感じたままが正解だと思つて下さい。

一日で何社か参拝する時は、この“順序”を、ちょっと頭の片隅に置いておかれるといいのではないかと思います。

●心霊スポットにむやみに近づかない

久しぶりに息子と話をしていたら、あっけらかんとこんなことを言いました。

「こないだ、友だちと心霊スポットに行ったよ」

なんでそんな所に行くの！ と叱りそうになりましたが、とりあえず話を聞きました。

息子によると、そこは有名な心霊スポットで、山奥にあるトンネルなのだそうです。友人の車から降りたら、なんだかゾクゾクする感じで“やばい”と思つたと言います。

一緒に行った友人たちには見えていなかったそうですが、すぐにそばに金網があり、そこに若い女性がいたそうです。女性は金網につかまってこちらをじーっと見ていた、その顔が怖かつたと言うのです。

友人たちはトンネルの方に行ったが、そっちの方向には霊がウヨウヨいる気がして、息子は気味が悪くて行けなかつたと言つていました。変な霊はつけていないようでしたので、ホツとしましたが、「心霊スポットは興味本位で行く所じゃないのよ！」と強く叱りました。

面白半分に関心スポットなんかに行つてはいけないのです。どんな霊が憑いてくるかわかりません。すぐに離れてくれる霊や、除霊で離れるような霊なら、憑かれたとしてもまだいい方です。中には、普通の僧侶や霊能者では祓えないような強力なものもあります。そういうのに憑かれたら、徐々に精神をやられてしまつて、

病院に入れられてしまう場合もあります。（精神の病気の方がすべて憑依されていると言っているではありません）。

祓える人がいなければ、一生そのままです。精神ではなく、肉体に悪影響を及ぼす霊もいます。日々精気がなくなつて、どんどん痩せていき、病気になるパターンです。

霊を甘く見てはいけません。

一般的な幽霊とは種類が違ふたちの悪い、悪意に満ちた悪霊が心霊スポットのような場所にはたくさんいます。このような怖ろしい霊に憑かれるから、という理由もありますが、心霊スポットが良くないのは、幽霊などの低級霊の波動に自分の波動が近づいてしまうから、というもあります。

心霊スポットはその土地自体が低い波動になっています。そこへ行ってしばらくいれば、その波動と同化します。

そんなことを繰り返していると自分の波動が低くなって、低級霊と合いやすくなり、しょっちゅう霊を見てしまうようになります。しかも、自分は霊が見えるんだ、とそれを特別のように思うと、ますます波動が合いやすくなっていきます。

なぜそれが良くないかというと、幽霊専門の霊能力になつてしまふ可能性があるからです。幽霊専門の低い波動になつてしまつたら、高い波動の神仏のような高級霊がわからなくなります。そして幽霊に憑かれやすくなります。

息子には、「幽霊は見えても見るな、聞こえても聞くな」と教えました。

一時期、丑三つ時になると、外からコーン、コーンと除夜の鐘のような音がしていました。あれ？ 近所にお寺なんかあった？ と考えて、ゾーッとしました。近所どころか、広い範囲でお寺なんかひとつもないのです。私は聞こえないフリをして、やり過ぎしました。鐘は何日か続けて鳴っていましたが、そのうち鳴らなくなりました。

こういう場合、「聞こえる」という反応をすると、向こうに。こいつには聞こえているんだなとわかつてしまいます。わかる人なんだ、と思われると来られますし、憑かれやすい人は憑かれることもあります。熊野本宮の神様が言っていました、幽霊がいると思つたら、見てはいけないそうです。うっかり見てしまうと、”幽霊を見ているその目“は、幽霊の方からもハッキリ見えるのだそうです。たちが悪ければ、その瞬間に憑かれます。霊が見えるからといって、幽霊にアンテナを合わせてはいけません。

波動が低くなつたら、神仏からのさりげないメッセージや助けが届かなくなります。受け取る能力が低下するからです。霊能者でない限り、靈感のアンテナは高級霊である神仏に合わせた方がいいです。私には靈感がないから、と思つている人がいるかもしれませんが、誰にでも靈感はありますので、アンテナのはり方には氣をつけた方がいいと思います。

## ●高い波動

高い波動に波長を合わせると、自分自身の波動も高くなっています。自分の内側から波動を上げるには、“心から感動すること”がオススメです。

たとえば、エメラルドグリーンの海を見たり、満天の星空を見て、うわー、きれい！と感動する、人や動物の心の美しさ・優しさにふれて感動する、努力が実り夢が叶って感動する、などです。

映画を見て感動するのもいいです。感動して涙を流すとスッキリするのは、涙と一緒にストレス物質が流れ出るというものもあるでしょうが、感動により波動が上がって、体についていた悪いものが落ちるためでもあると思います。

感謝をすることでも波動は上がります。

“感謝をする”という行為のすごいところは、自分の波動だけでなく、相手の波動をも上げるところです。感謝されると、なんとなく心地いいのはそのせいです。「ありがとう」という言葉には、そういう力があります。波動の高い言葉なので、たくさん言うといいと思います。

次に、体の外側から波動を上げる方法としては、修行があります。ですが、一般の人は座禅や滝行や読経をする機会はありません。と思います。もし修行をやりたいのであれば、自宅のお風呂で、水を頭から奇数回かぶる簡易禊ぎでも、十分効果がありますので、これで十分です。天然で源泉かけ流しの、加温していない温泉も

波動が高いです。地球のエネルギーを、熱に変換してお湯にしていますので、パワーがあります。

力の強い神様がいる近辺の温泉は、より波動が高いです。温泉治療でケガや病気が良くなるのは、高い波動に体が反応するからです。温泉と同じ成分の入浴剤を入れても、天然温泉と全然違うのはそのせいです。温泉はつかるだけで、高い波動に体をなじませられるのでオススメです。ですが、やっぱりケタ違いに波動が高いのは、神社仏閣です。

神社は、平野部にある神社より、山岳系の山の上にある神社の方が波動が高いです。平野部といっても、出雲大社や伊勢神宮などは別格で、こちらは山岳系と同じくらいの高さです。

神社に行ったら、高い波動になるべく長時間当たった方がいいです。神様の高い波動で、自分が気づいていない憑きものが落ちることもあるからです。高い波動を長く浴びれば浴びるほど、自分の波動を上げることになるので、しばらくは境内でブラブラするのがいいと思います。さっさと帰るのはもったいないです。

お寺の場合は神社と違って、なるべく仏像のそばに、せめてお寺の本堂内に、長くいるのがいいです。般若心経を唱えられる人は、小声でもいいので、仏像のそばで唱えると、仏様のご加護がもらえます。つまり、高い波動を受け取りやすくなります。般若心経を唱えられない人は、真言でもいいです。自分の口から出す仏様の言葉で、仏様の波動と同調します。ですので、黙っているより効果があります。

以上のような方法で、波動を上げていけば、低級霊に惑わされることは少なくなり、憑依されることもなくなります。低級霊は波動の高い人には憑依することが出来ません。

波動を高くする努力をしていると、そのうち高級霊である神仏に波長が合ってきます。すると、神仏とつながりやすくなります。守護霊からの守りもストレートに届くようになります。これは特別な人だけがそうなるわけではありません。低い波動は避け、高い波動に合わせて生きる、神仏と近くなれるコツはたったこれだけなのです。

ひっそりとスピリチュアルしています ハート出版

桜井識子